

教育目標

個性を伸ばし、創造力を豊かにして、共に生きる社会に貢献できる人間をめざす

「進取」「自律」「融和」

達成状況：◎よく達成 ○ほぼ達成 △やや不十分 ■不十分

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
1 学力向上と学習指導の充実	(1) 学力向上のため、学習習慣の定着を図る。	① 面談週間の実施と学習時間調査に加えて、「高校生のための学びの基礎診断」を積極的に活用し、生徒の学習習慣や学力の現状を把握して学習習慣の定着を図る。	1 期間設定については適切であった。期間中に会議等が入ることもなく、円滑に実施できた。(◎) 2 7月、11月、1月に調査を実施した。(◎) 3 集計速報はサイボウズに掲載したが、分析して事後の指導に生かすことができなかった。(△) 4 分析会は年次ごとに実施した。各教科(国語・数学・英語)で振り返りと今後の取り組みについてまとめた。(◎)	1 「学びの基礎診断」については、集計が終わった時点で、各教科・年次における振り返りと事後の取り組みについてまとめ、その後の授業改善に生かす。 2 学習時間調査結果を面談等に生かし、生徒の学習状況を改善する方法について検討する。
	(2) 魅力ある授業づくりにより、生徒の学習意欲を喚起する。	① ICTの活用、協働的な学習、アクティブ・ラーニングの視点で校内研修会を開催し、授業互見を推進する。 ② 授業公開週間には保護者への授業公開も行う。	1 電子黒板についての研修会を6/24(月)、12/23(月)実施した。多くの職員の参加があり、積極的に活用しようとする意欲を感じた。(◎) 2 10月末から実施した。研究授業では校外から助言者を招いて授業研究を行い、充実した内容となった。一方で授業互見は活発ではなかった。(○) 3 ICT活用に関する設問について、プラス評価は50%前後にとどまった。教員が活用することに加えて、生徒が活用する方法についても研究しなければならない。一方でペア・グループ学習に関する設問では、90%前後のプラス評価があり、先生方が積極的に授業改善に取り組んでいることが伺える。(○) 4 公開授業への保護者来校が2人のみにとどまり、不調であったが、見直しをしながらも継続していく必要を感じている。学校評価アンケートでは、来校した保護者以外も回答があり、設問が不適切であった点は、反省点である。(○)	1 公開授業週間について、保護者の参加しやすい時間帯や関心を持っていただける内容について見直しを図って、継続する。 2 授業互見は時間割の制約もあるが、積極的に行っていたように声がけをする。 3 学校評価アンケート(保護者)の設問を見直し、意図が明確に伝わるようにする。
	(3) 読書習慣の定着を図る。	① 朝読書の指導計画や指導体制を学校全体で共有する。 ② 積極的に図書委員の活動の場を設ける。	1 担当の先生方の協力を得て円滑に実施できた。(◎) 2 生徒・保護者ともに、学校での朝読書に関する設問では、90%を超えるプラスの評価があった。一方で、家庭での読書習慣の定着に関する設問ではプラス評価は60%前後にとどまり、今後も継続して指導していく必要がある。(○)	1 今年度の朝読書の指導体制を総括し、来年度の計画を策定する。
	(4) 「総合的な探究の時間」の研究を推進する。	① 外部講師を招聘した研修会や先進校視察を実施する。 ② 「産業社会と人間」および「総合的な学習の時間」を見直し、令和2年度の実施計画を作成する。	1 5/7(火)、8/21(水)、10/7(月)、11/19(火)、12/13(金)に実施した。サイボウズを活用して情報共有できた。先進校視察(12/5)を実施し、委員会(12/13)及び職員会議(12/20)で報告した。(◎) 2 委員会での検討を経て、次年度の計画をまとめることができた。(◎)	1 来年度も継続的に委員会を開催し、各年次での取り組み状況や改善すべき点について情報を共有し、学校全体での取り組みとしていく。
	(5) 系列と教育課程の見直しを図る。	① 新学習指導要領への移行と2023年度からの学級減への対応を見据えながら生徒の進路希望や社会の変化に対応した系列について研究する。	1 5/7(火)、6/18(火)、7/19(金)、9/27(金)、10/18(金)、に実施した。(◎) 2 各教科、委員会での検討を経て、カリキュラムの原案を作成した。しかしながら、不十分なものととどまっている。(△)	1 来年度も継続的に委員会を開催し、前期末をめどに成案を得て、県教委との相談に入りたい。
<p>学校関係者評価委員から 子どもの読書離れは本を読む時間がないことが原因の一つであるので、朝読書という形で読書の時間を確保することは大切である。「働き方改革」は教職員だけではなく、生徒も含めて「豊かな生活を送るための時間づくり」である。中学校は話し合ったり、発表したりする活動は多いが、自分の考えを文章にしてまとめる時間が取りにくいので、高校でこの点も指導していただきたい。</p>				

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 キャリア教育の推進</p>	(1) 高大接続改革について全職員に十分な周知を図る。	<p>① 学びの基礎診断、英語認定試験、e-Portfolio、新調査書等の様式等の情報を随時提供し、学校全体で共有する。</p> <p>② 早期から学びの蓄積を意識し、記録の習慣化を図る。</p>	<p>1 英語認定試験の入試への活用や共通テストの記述式導入が見送られ、一時、生徒の混乱がみられたが、保護者への文書や親子進路ガイダンス等での連絡により理解が得られた。GTECについては、英語科・2年次と検討し、次年度も継続での受験を予定している。(ただし1年次はアセスメントとして全員対象に9月、2・3年次は検定時に大学進学希望者に6月実施に変更。)(◎)</p> <p>2 e-Portfolioについては1、2年次とも、入力されていない生徒への指導も含めて複数回入力の時間を取ることができた。機会を設けずとも自発的に入力している生徒もいるが個人差も大きい。学生手帳への記入、e-Portfolioへの入力にあてる時間の確保が難しい中、行事ごとになるべく入力に時間を確保した。後期の改善策として挙げている朝読書の時間利用について教務部への依頼には至らなかった。(○)</p>	<p>1 大学入試改革初年度にあたり対応不足とならないよう、情報の収集と職員間の共有、生徒・保護者への発信を行う。各教科の共通テスト対策のほか、進学用提出書類への記載に向けて、分掌、年次、担任それぞれの役割を明確にし、着実に準備が進むように依頼する。今年度初めにもまとめたが、機能していなかった。</p> <p>2 学生手帳へ記入⇒e-Portfolioへの入力という手順を習慣化させるために時間を確保する必要がある。次年度は行事直後の朝読書の時間を学生手帳への記入時間とするなど、定期的に時間確保ができるよう教務部と調整する。ボランティアの実施については、生徒部との連携が必要である。統一した名称で入力できるよう、教室掲示の募集要項等の名称を検討する。</p>
	(2) 生徒の進路実現に向けて、模擬試験・高校生のための学びの基礎診断」等の取り組みを検証し、より良い形で継続する。	<p>① 随時、各年次、関係分掌、各教科の意見を聞いて検討し、学校全体で共有するとともに、次年度に継続できるよう指導方法を記録する。</p> <p>② 進路達成の観点から、「総合探究」の指導が円滑に進むようなサポートを行う。</p>	<p>1 今年度、模擬試験の実施内容を全年次大幅に変更した。年次の判断で対象者を変更することもあったが、問題なく実施できていた。「学びの基礎診断」「進研模試」「実力診断テスト」の結果をもとに、業者による結果分析を行いその後の指導に役立てた。また、「学びの基礎診断」の結果振り返りシートを活用することで、効率的に能力を向上させる事や、学習のポイントを理解することの学びにつながった。(◎)</p> <p>2 3年次の探究学習については、生徒の指導は年次と授業担当者が行い、進路部が外部講師の手配を行うといった役割分担で、計画通りに全員が発表までたどり着いた。情報収集の手段や発表後の内容の振り返りなど課題もあったが、授業担当者のご努力で次年度以降の指針となった。(○)</p>	<p>1 模擬試験に関しては、次年度も今年度同様に実施し、事前学習⇒試験実施⇒振り返り・事後学習を更に定着させる。業者による結果分析を年間行事に組み込み、時宜を得た指導になるよう企画する。1年次からの上位者対策を、年次、教科と連携して企画していく。「学びの基礎診断」も今年度の継続とするが、生徒の選択教科に対応できるタイプに変更し、学生手帳に振り返りの記載欄を設けることで定着を図る。また、実施前のガイダンスと実施後の講演会を行う。</p> <p>2 探究学習に関しては、次年度から本格的に開始されるため、年度末の新旧3年進路引き継ぎ会での情報交換を行う。各年次と連携しながら、進路部としては講師の手配のサポートと教材の紹介等の環境整備を行う。</p>
	(3) 第一希望の進路達成のために、教員の指導力を高める。	<p>① 職員研修会や各種分析会を行い指導の在り方について共有化を図る。</p> <p>② 全職員で行う3年次生の個別指導については、必要な情報を提供すると共に、進路部・年次が直接指導教員と情報交換をする。</p>	<p>1 3年次の個別指導においては、先生方にきめ細かくご指導いただき、就職、進学共に、全員で生徒をみる体制づくりができた。また、担任と個別指導の教員との情報交換もスムーズに行えた。(◎)</p> <p>2 小論文講習会などを開催できたことにより、志望理由書・小論文の添削をスムーズに行うことができた。また、分析会等の指導力を高めるための機会も適切であったと思われる。就職試験の結果、一次で不採用だった生徒は4名、うち3名が事務職であった。また、公務員試験の結果を受けて4名が民間就職に変更したが、年次団の速やかなサポートで3人は内定を得た。職種が決まらず悩んでいる生徒(1名)に対しても、年次団・担任およびハローワークとも連携しながら指導している。(○)</p> <p>3 1月15日現在、年度当初からの就職希望者は内定100%。大学・短大及び看護医療系専門学校合格者は、62名(うち国立大学3名)、公務員試験合格者10名と、概ね目標は達成した。(一般受験中で未定の生徒は11名。)ただし、看護系希望者に関して、地元限定して受験し合格できなかった生徒も1月以降の再受験に挑戦している。(○)</p>	<p>1 就職・公務員指導は、外部講師を最大限に利用しながら今年度同様に実施していく。公務員講習の日程に関しては、今年度内早めに打診し、生徒の行事と重ならない時期を依頼する。</p> <p>2 進学については、入試改革に伴ってこれまでの生徒の実績の検証だけでは予測できない部分がある。今後、総合型選抜(AO)、学校推薦型選抜(推薦)の指導を中心にする場合、国立大希望者への指導をどのように行うか、学校の方針として考える時期である。特に次年度から県立保健医療大学の学校推薦型選抜において共通テストが導入される点に関しては、全職員の同意のもと、1年次からの個別指導体制を組む必要がある。</p>
	(4) 進学・就職それぞれにおいて、3年間一貫した指導を確立する。	<p>① 外部講師も活用し、生徒・保護者に向けたガイダンスを、時期に応じて体系的に実施する。</p> <p>② 難関校進学を目指す生徒についての個別指導を早期に開始する体制を整える。</p>	<p>1 生徒・保護者向け進路説明会は、各年次とも学校教育評価においてプラス評価が多く、実施時期、内容、また3年間を見通した指導という視点からも適切であったと思われる。親子で進路情報の共有ができ、その後の生活を見直す契機となった。3年次親子進路説明会については、夏季休業中に三者面談を行うことを考えると、4月のPTA総会時に開催することで不都合はなかった。ただし前期反省にある通り分科会の分け方に工夫したい。(◎)</p> <p>2 昨年度12月から開始したチームK(国立大・難関大)・チームM(看護医療系)の指導は、今年のAO・推薦受験で活かされたという実感がある。現在2年次で指導を開始し、真剣に進路と向き合う意識づけができ、情報収集や発表を経験する中で、進路達成への意欲が高まっている。1年次の個別指導についても今後体制を整えていく。(○)</p>	<p>1 進路説明会は、今年度と同様に行う。ただし、3年次親子進路説明会(PTA総会時)では大学短大と専門学校の分科会を分ける。また、1年次親子進路説明会での「県内の大学について詳しく知りたい」という要望に応える内容を盛り込む。</p> <p>2 2年次に関しては、引き続きK&Mチームの指導を継続する。また現在の指導が3年次につながるよう、年次、進路で連携して春休み期間の有効活用を行なう。1年次に関しては県内の大学の紹介と同時に、早期指導の体制を整えていく。</p>
<p>学校関係者評価委員会から 学生手帳を活用して、単なる1日の記録の記入から、自主的にメモを取ったり計画を立てたりする能力の育成に努めていただきたい。天童高校の一番の特徴である様々な進路を選択できるというメリットをキャリア教育に生かしていただきたい。</p>				

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
3 生徒指導及び特別活動の充実・強化	(1) 安全に対する意識の高揚を図る。	① 交通ルール・マナーの遵守、自転車走行上注意等に関する効果的な安全教育・安全管理により生徒の安全を確保する。 ② 保護者・地域との協力により登下校時の生徒の安全の確保に努める。	1 交通ルール・マナー遵守等の指導については、指導の内容を検討しながら機会を捉えて行ってきた。事故・苦情件数は例年並みであったが、本校に寄せられる苦情内容がより濃いものが増えてきている。(2) 2 働き方改革の方針を踏まえ、外部との関係やの在り方については検討を深めている。PTA生徒部との協力関係の維持・向上に努め、警察等との連携・協力を努めてきた。(○)	1 交通安全指導については生徒部職員を中心に指導を行い、苦情への対応、その後の指導を行ってきた。また、苦情があった地点のマップを作成するなどし、危険地帯の把握にも努めてきた。今後も生徒への啓発活動とともに全職員での問題の共有化を図り取り組みを継続していく。 2 これまでの取り組みの反省を集約し、外部関係団体等との協力関係の在り方を今後も検討していく。
	(2) 生徒が自ら企画し、主体的に参加・運営する生徒会活動・部活動を推進する。	① 生徒会役員の役割の明確化と各種委員会の位置づけや活動内容の検討を行う。 ② 各種委員会の自主的活動を推進する。 ③ 生徒一人ひとりの活躍できる場を提供し、各種行事等への積極的な参加を促す。	1 今後の学級減を見据え、現在の4クラス規模の各種委員会・部活動等の適正数や活動内容について検討している。(△) 2 これまでの委員会の活動としてきた一部の活動を生徒の主体的な取り組みへと変更してきた。(○) 3 生徒会活動・行事等への参加に関する記録の在り方について、検討するまでには至らなかった。(△)	1 委員会数やその活動内容、部活動の適正数については年内を目途に検討し、今年度内に方向性を示し、部活動の適正数については次年度当初に提案を行う。 2 今年度の生徒会行事の成果と反省を集約し、生徒の自主的活動とする内容を明確にしていく。 3 一人ひとりが積極的に参加できる学校行事となるよう工夫するとともに、生徒会行事へのかかわり方についても検討する。
	(3) 規律ある学校生活を確立する。	① 定期的な身だしなみ点検を行い、清潔感ある服装となるよう指導する。 ② 携帯電話の使用ルール・時間の順守できるよう啓発活動・管理指導を行う。 ③ 教室移動や集会時における整列など時間に対する意識付けを行う。	1 今年度から身だしなみ点検を昨年度までの半分に減らして取り組んできている。全職員で指導の内容と対処法等について確認し、実施については年次と連携をしながら取り組みを進めた。(○) 2 携帯電話の使用については、年度当初から校内で使用できる時間等についての意識の定着に努めてきた。(△) 3 生徒集会の内容については計画通りに実施されているが、運営については時間通りに実施することが困難であった。(○)	1 節度ある身だしなみで学校生活を送れるよう、点検の方法や内容について検討し、教職員間で意思疎通を図りながら指導できる体制を整える。 2 携帯電話等の使用については、定期的・継続的な指導を行っていく。 3 生徒集会時の集合・整列時間が徹底できるよう教室移動の際の声掛けやアナウンスを行い、整列指導では生徒会を中心に行える体制を構築していく。また、生徒集会の内容については、時間設定と行事の内容を検討し、計画通り実施できるようにしていく。
	(4) 心身ともに健康的な学校生活を確立する。	① スクールカウンセラーによる健康相談活動を充実させる。 ② 健康診断や各種検査の事後指導の徹底を図る。	1 スクールカウンセラーによる健康相談活動を計画に従い18回実施する見込みであり、これまでに延べ46人に実施した。(△) 2 心電図100%、尿検査100%、貧血検査86.7%と良好。視力39.2%、歯科30.8%と受診報告は低い。職員の受診報告は95% (R2.1.16) である。(△)	1 積極的にスクールカウンセラーを活用し、不登校の減少を図る。 2 集団生活への不適応を未然に防止するために、生徒の動向を把握し、関係職員と情報交換を図る。
学校関係者評価委員から 天童高校の生徒の自転車利用については、通勤時によく見かけるがそれほど気になる生徒とは出会ったことはない。交通安全指導においては、むしろ、自動車の方が危険なので、注意するようにはしていただきたい。				

達成状況：◎よく達成 ○ほぼ達成 △やや不十分 ■不十分

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
備 4 安全・安心な学習環境の整	(1) 一人ひとりの危機管理意識を高めるとともに、安全・安心な学習環境を整備する。	① 月1回の安全点検の結果を校内グループウェアで公表し、全職員に周知する。 ② 年2回の防災訓練のうち一回は「シナリオ提示型」、もう一回は「抜き打ち」訓練を行い、より実効あるものにする。	1 防災訓練時に危機管理委員会を開催し、天童市消防本部職員から助言をいただき、職員会議で共有した。(○) 2 校内グループウェアで毎月実施している安全点検の結果を報告し、校舎の管理状況を全職員で共有した。(○) 3 防災訓練はほぼ予定通りに実施できた。生徒の評価も高かった。(94.2%) (○)	1 防災訓練は火災や地震発生以外のケースにも対応できるように、設定を工夫していきたい。
	(2) 職員・生徒を守る視点で情報環境整備を行う。	① 情報セキュリティの強化を図るため、研修会を行う。 ② HP(ホームページ)については、デザイン・運営方法等の刷新を図る。	1 校内で情報セキュリティ講習会を行ったが年度後半での実施になった。情報セキュリティに関する問題は発生しなかった。(○) 2 HPのリニューアルに向けて校内ワーキンググループを立ち上げて、検討を重ねている。令和2年3月中に新しいHPへの全面移行を予定している。(○)	1 情報セキュリティ講習会はできる限り4月か5月に実施したい。 2 リニューアルしたHPへの情報更新を定期的実施できるように校内体制を整えたい。
学校関係者評価委員から 天童高校は緊急避難場所に指定されているので、地域行政と連携できるように行政側に働きかけてはいかかがか。				

達成状況：◎よく達成 ○ほぼ達成 △やや不十分 ■不十分

項目	重点目標	具体的取組事項	取組状況及び目標の達成状況	次年度に向けた改善策
5 家庭や地域との連携強化	(1) 校外の様々な地域ボランティア活動を通じて、「地域に貢献し、地域と共に歩む心」を育てる。	① 生徒部との連携を強化し、「一人一ボランティア」を徹底する。 ② 「天童桜まつり」「天童夏まつり」に参加し、地域連携活動をより活性化させる。	1 在籍数467人の内、291人の生徒が1回以上、ボランティア活動に参加した。(参加率62.3%)参加延べ人数では485人(一人当たり1.04回)。(△) 2 ボランティア活動・地域貢献活動に対する保護者の評価は高い(良評価が96.6%)。(△) 3 「天童桜まつり」「天童夏まつり」には例年どおり参加することができた、夏まつりの花笠パレードでは3回連続で最優秀賞をいただいた。夏まつりの参加者が少ない(生徒55人、保護者19人、職員14人)のが課題である。(△)	1 生徒部と連携し、「一人一ボランティア」をより奨励する。 2 「天童夏まつり」へ参加する教員側の指導体制を再検討し、組織的に指導していく。また、生徒については生徒会執行部に働きかけ、生徒会の地域貢献活動の一環としての参加になるように指導する。
	(2) 保護者と連携し、学校行事やPTA諸行事を円滑に行う。	① PTA活動をより精選する。 ② PTA諸行事の出席率80%以上を目指す。 ③ 創立100周年に向けて準備を進める。	1 東北高等学校PTA連合会山形大会開催(7月、山形市で開催)により例年より増えた業務があったが、保護者の良評価は86.9%と高かった。(○) 2 PTA総会は91.2%の出席率であった(PTA総会欠席者を対象に後日実施した説明会の出席者も含む)。総会だけだと76.9%の出席率であった。(◎) 3 同窓会・PTA・学校側の3者で創立100周年記念事業実行委員会を組織し、事業運営にあっている。(○)	1 今後のPTA活動の内容の検討をし、より活動しやすい状況を構築する。 2 PTA総会をもっと参加しやすい状況を作る。また、PTA説明会の在り方を見直したい。
	(3) 生徒の活動をはじめ学校の教育活動に関する情報を積極的に発信する。	① 保護者や地域への情報提供として「広報天高」を年5回発行する。 ② HP(ホームページ)を月2回更新して、生徒の活動が見えるような情報発信をする。	1 保護者アンケートでは評価が高かった。(88.4%、昨年度82.1%)ただし、「広報天高」は毎回担当者が変わることや全員が昨年度は担当していなかった教員であったことから予定していた時期よりも発行が遅れた。(○) 2 HPの情報提供計画を作成し、アップロードする内容と担当者を明確にした。その結果、HPで提供する情報は昨年度よりも増加したが、計画していた事項すべてについてアップロードするまでにはいたらなかった。(○)	1 「広報天高」については総務部全体で編集計画を策定し、総務部員全員で編集・執筆上の留意点を共有した。 2 HPへのアップロード作業を外部業者に委託することで職員の技術的負担を解消する。また、アップロードする記事の文字数や写真の枚数制限を担当者の負担感を軽減する。
学校関係者評価委員から 中学校のPTA総会出席率は80%くらいである。説明会やガイダンスを同時開催し、保護者の参加率を高めている点は工夫されている。中学校と比較すれば天童高校の生徒は様々なところでボランティアをしているのではないかと。				